

令和3年9月26日の大気不安定による大雨について (和歌山県の気象速報)

この資料は速報として取り急ぎまとめたものです。そのため、後日内容の一部訂正や追加をすることがあります。

概要

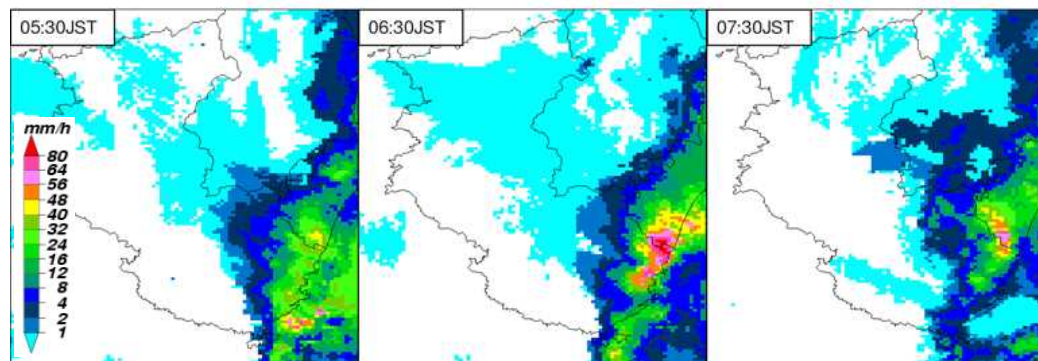
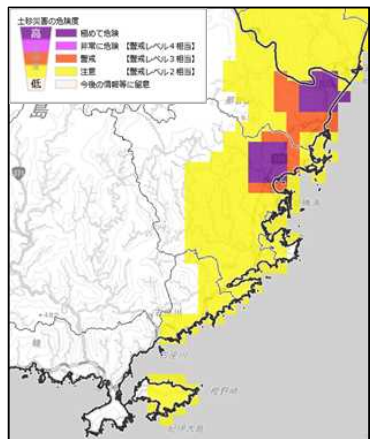
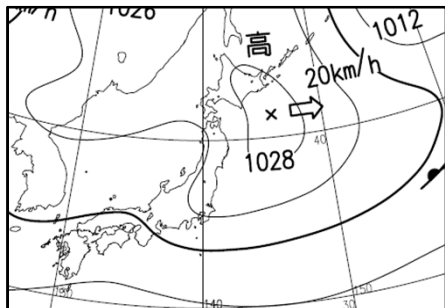
釧路沖に中心をもつ高気圧の縁を回って、暖かく湿った空気が和歌山県に流れ込んだため、和歌山県では大気非常に不安定な状態となりました。特に紀伊半島の南東斜面では暖かく湿った空気が吹き付ける状態が持続し、さらに上空に寒気が流入したため、新宮・東牟婁周辺では雨雲が急激に発達し大雨となりました。

降り始めの25日20時から26日24時までの総雨量は、新宮で238.5ミリ、那智勝浦町色川で155.0ミリを観測しました(参考:9月の月降水量の平年値は、次のとおり。新宮: 443.0ミリ、那智勝浦町色川: 514.1ミリ)。

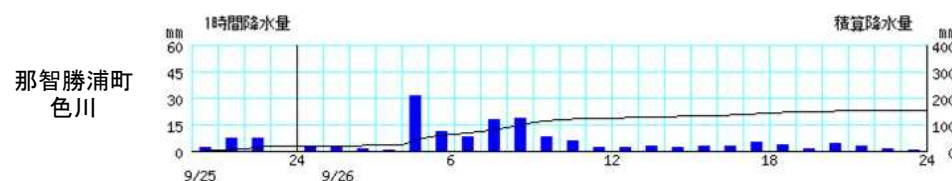
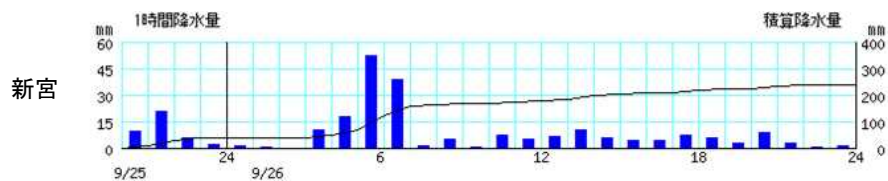
この大雨により、和歌山県と和歌山地方气象台は、新宮市、那智勝浦町に土砂災害警戒情報を発表して厳重な警戒を呼びかけました。また那智勝浦町の市野々・井関・川関地区に避難指示が発令されました。

この大雨の影響で、JRきのくに線では新宮駅～紀伊田原駅間で運転見合わせがありました。

【被害状況: 26日09時00分現在、和歌山県調べ】



※解析雨量は、前1時間の降水量分布を解析したものです。この分布の値は雨量計で観測された値ではなくレーダーの資料などから解析したもののため、実際の雨量と異なる場合がありますので留意願います。



アメダス時系列グラフ(9月25日20時～9月26日24時)

※横軸は時刻を示す。
※降水量棒グラフは1時間降水量(左軸)、折れ線グラフは積算降水量(右軸)を示す(単位mm)